

令和6年度研究開発学校の研究開発課題の設定について

研究開発学校の指定を受けようとする学校においては、先行研究も踏まえながら、以下に「研究開発の募集課題」として示した4つの課題のいずれかに即して、先進的な研究開発課題を具体的に設定すること。

各課題については、「研究開発の視点の例」を示している。各学校における課題の設定に当たっては、必ずしもここで示している視点に限る必要はないが、これらも参照しつつ、教育課程の在り方について長期的な視野を持ちながら、各学校の創意工夫を生かして研究開発課題を設定すること。

その際、以下の点に留意すること。

- (1) 研究開発学校制度は全ての国公私立学校に適用される教育課程の基準である、学習指導要領の改訂に資する実証的な資料を得ることを目的とするものであることから、その趣旨を十分に踏まえること
- (2) 他の学校においても実施できる汎用性の確保に特に留意し、個々の環境条件の下で得られた結論について、一般化がどの程度までできるかを明確にするとともに、他の学校への普及や展開が期待できる内容にすること

なお、研究開発課題は教育課程全体を見通したものであることが望ましいが、研究開発の対象は必ずしも複数の教科等にまたがるものである必要はなく、1つの教科等に限られるものであってもかまわない。

【研究開発の募集課題】

- | |
|--|
| 1. 主として各教科等の内容の構造化等による資質・能力の育成に関する研究開発 |
|--|

(研究開発の視点の例)

＜教科等の主要な概念（いわゆるキーコンセプトやビッグアイデア）の抽出＞

教科等の構成原理を踏まえ、その教科等の本質をなす主要な概念とそれを具体化する個別の知識という指導内容の構造化や立体化について研究する。

＜指導内容の重点化＞

現行の教科等の枠組みの中で、各教科等の内容の構造化を図り、学習指導要領に示す内容事項の重点化を行うことにより、資質・能力を効果的に育成する教育課程の在り方について研究する。

＜各教科等の授業時数や総授業時数の在り方の研究＞

関連する指導内容の整理・統合を行う合科指導、効果的なパフォーマンス課題の設定やICTの効果的な活用等の指導方法の工夫を通じて、各教科等の年間授業時数や総授業時数の在り方について研究する（年間の授業週数や週当たりの授業時数、1日当たりの授業コマ数の弾力的な運用等を含む）。

＜「学びに向かう力、人間性等」に特に着目した資質・能力の育成＞

「学びに向かう力、人間性等」に特に着目した資質・能力の育成の在り方について研究する。

2. 主として学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた教育課程に関する研究開発

(研究開発の視点の例)

<学習の基盤となる資質・能力の再整理>

GIGA スクール構想による ICT 環境の下で、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を再整理し、これからの時代において必要とされる資質・能力の育成に向けた教育課程及び指導方法について研究する。

<情報活用能力の重点的な育成に向けた教育課程の研究>

義務教育段階（特に中学校）において、例えば新たな教科等の設定や、中核的な指導場面の設定など、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための方策を検討し、その目標や内容の構成・系統等について研究する。

高等学校において、例えば共通教科情報科における新たな科目の設定や、当該教科を要しつつ各教科・科目等の特質に応じた情報手段を適切に活用する活動の充実など、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための方策を検討し、その目標や内容の構成・系統等について研究する。

3. 主として個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する研究開発

(研究開発の視点の例)

<STEAM 教育等の教科等横断的な学習等>

STEAM 教育など教科等横断的で実社会や実生活と関わる探究的な学びなどにより、児童生徒一人一人に応じた個別最適な学びと、児童生徒同士がお互いの違いを認め合い、学び合いながら相乗効果を生み出す協働的な学びの一体的な充実の在り方について研究する。

<学校外での学びの実践>

不登校児童生徒への対応も含めて、遠隔・オンライン教育など ICT も活用し、大学や民間団体等が提供する学校外での学びへ児童生徒をつないでいき、学校においてその学習を生かし自他ともに学び合い成長する機会を設けるとともに、学校外での学びの成果を含めた学習評価の在り方について研究する。

<異年齢・異学年集団による学習>

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、異年齢・異学年集団による学習や指導の在り方について研究する。

<一人一人の興味・関心に応じた学びの充実のための弾力的な教育課程編成>

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、児童生徒一人一人がその興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択できるような、弾力的な教育課程の編成・実施の在り方について研究する。

4. 主として学校段階間の連携による一体的な教育課程に関する研究開発

(研究開発の視点の例)

<幼小接続>

幼稚園等と小学校の連携を推進し、円滑な接続を図るための一体的な教育課程について研究する。

<小・中・高等学校 12 年間を見通した教育課程>

義務教育全体や初等中等教育全体を見通した資質・能力の確実な育成に向け、例えば、教科等横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する教育課程の編成・実施や、児童生徒の発達の段階を踏まえた各教科等の年間授業時数や総授業時数の在り方、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりする自己評価などの学習活動の充実による児童生徒の発達の段階に応じた学びに向かう力の育成などについて、義務教育 9 年間や小・中・高等学校 12 年間を見通した一体的な教育課程の中で研究する。その際、各教科等における指導内容の系統性を踏まえ、各教科等の指導順序の工夫や指導内容の重点化等についても検討する。